

令和4年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	防災ポーチ常備、防災知識の向上による、小学生の登下校中の大規模地震等に備える防災・減災対策事業
事業主体 (連絡先)	ママフェスまつもと
事業区分	地域防災力の向上
事業タイプ	ソフト
総事業費	1,397,429 円 (うち支援金 : 1,117,000 円)

事業内容

<小学生向け 自分で作って自分を守る 防災ワークショップ>

■実施内容

- ①防災ポーチ&防災手帳を作ろう (ワークショップ)
- ②松本の災害・防災を知ろう (子ども向けクイズ講座)
- ③防災食や備蓄品について知ろう!



ワークショップ風景

事業効果

- ・120組の動員目標に対し114組の結果となり93%の達成率だった。
- ・93%の達成率ではあったが、キャンセル待ち17組を加えると131組と約110%達成をしていることから、一定の効果とニーズが確認できた。
- ・キャンセル待ちの方を受け入れることができる運営体制を構築することで、次年度以降さらに大きな効果が期待できるがわかった。
- ・本事業を構築、実施する上での調査分析で関わった企業、大学、業界団体が大変興味を持ってくれ、次年度以降の協賛金収入を見込む際の営業先リストを獲得することができた。
- ・参加してくれた方のコメントが肯定的なものも多く、今後の事業発展のモチベーションとなった。
- ・プレスリリースによりメディア掲載を獲得でき、事業の広報が効果的に行えたと考える。
- ・ソーシャルディスタンスの実施、実施にむけたガイドラインを整備し、1回の実施人数を5組までとしましたが、1組で数名の参加者がいることを考慮し、今後も1回5組程度が適正であると確認できました。

【目標・ねらい】

- ①地域防災力の向上
- ②子供の防災意識向上

※自己評価 **【B】**

【理由】

目標としていた動員も概ね達成でき、この地域に一定のニーズがあることの確認と運営体制の精査、ワークショップ内容の改善点が明確になったことは非常に良かった。しかし、4月入学に向けたワークショップの開催スケジュールの精査と、自力開催を目指した協賛金の確保に課題が残った。次年度以降の取り組みのポイントになると考える。

今後の取り組み

- ・本年度以上に多くの外部協力者と連携することで、より効果的で質の高いワークショップを目指す・4月の入学に向けて意識が高まるのが1月以降になるが、12月までに啓蒙活動に取り組むことでより効果的になると感じたので可能な範囲で実施していく。
- ・協賛金をしっかりと確保するために、期初から営業を強化する。
- ・ワークショップ内の災害に関する内容を精査し、より未就学児-小学生低学年が興味関心を持てる内容に改善する。・ワークショップの時間配分とゴールの共有、家に帰ってからのタスクをしっかりと精査する。・自主開催の防災ワークショップだけでなく、防災イベントの実施を検討・実施していくことでより認知度を高める努力をする。・及び他団体との連携を強化し、他団体のイベントへの出店を通じて認知度を高める。
- ・小学校や幼稚園、保育園への呼びかけを行い、ワークショップの団体開催を視野に入れることで多くの子供達に参加してもらえる機会を創出する。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある